



上・赤、黄、緑の色とりどりのパターンが面白い干し物



上・糸の染めつけは技術的に一番むづかしい仕事だ。



上・何10台というはた織機の騒音の中で美しい肥後絣が出来上っていく。



右・民芸的な味わいの肥後絣

堅ろうで、素朴な味わいで知られる肥後絣の製造は、明治初期に初まったといわれる。従って百年近い歴史をもっていることになる。
最盛期の正末期から昭和初期にかけては、県内で30をこえる工場があったが、不況や戦争の影響で次第に衰え今では川尻町の工場だけで生産が続けられている。
現在の年間生産量は約1万反。需要の殆んどは県内だが、一部は大阪や福岡、沖縄などに出荷されて、農山漁村の作業着などとして、根強い人気をもっている。
最近では、時代にマッチした柄の工夫も進み、壁かけや、のれん、フスマなどにも愛好されており、民芸品「肥後絣」としての将来にも大きな希望がもたれている。



上・染めた糸も、白糸も、機械にかける前にのり付けする。



上・タテ、ヨコの糸を織り込む筈（おさ）通し作業

史
み
歴
ご
よ
み

【五月】

- △2日★昭和二十三年（一九四八）サマータイムが実施された。
- △3日★昭和二十二年（一九四七）憲法・地方自治法施行。
- △6日★明治三十七年（一九〇四）新市街で第一回日露戦争大祝勝会が挙行された。
- △10日★昭和三十七年（一九六二）皇太子ご夫妻が十四日まで、県下をご視察になった。

- △15日★昭和七年（一九三二）五・一五事件起きる。海軍青年将校を中心とするクーデターで、犬養首相が射殺された。
- △16日★昭和三十五年（一九六〇）市庁舎完成。県引継ぎは昭和三十六年五月十六日。
- △18日★昭和四十年（一九六五）三太

（前頁よりつづく）
堯舜孔子の道を明らかにし
西洋機械の術を尽くす
なんぞ富国に止まらん何ぞ強兵に止まらん
大義を四海に布くのみ（原漢文）
という彼の七絶は、その一生を貫いた抱負であり信念であった。
世のさまの移るも知らでいたすらに
案山子は弓を放たざりけり
という歌には、時勢を遠視し得ない有象無象への限りないもどかしさがうづぼつとしているのを感じずにはいられない。
それでもなお、小楠の進歩的な開国論は、一部封建思想の過激派にとって売国奴としか映らなかつた。
折角明治新政府に登用されて参議の重職につき、その大経綸を具体化しようとした矢先に、刺客の襲うところと

なって、京都寺町通りの街頭に非命の最後を遂げねばならなかつたのである。

明治二年正月五日、歳六十一。
宮部鼎蔵も小楠と同じ上益城で七滝の産、もともとは医者であったが、剛毅なたちで業をさしを扱うよりも刀槍を振りまわすのが性に合っていた。叔父の増美に兵学を学び、林檎園に国学を学ぶなどして志を勤王に傾け、吉田松蔭とは特に意気投合して交友すこぶる厚かつた。同志とともに各地に奔走したが、元治元年（一八六四）六月五日、京都三条の池田屋で、新撰組の急襲に遭い奮戦の末自刃して果てた。歳四十五。
池田屋騒動の名は最近特にラジオやテレビによってポピュラーとなつていく。

【六月】

- △1日★明治四十一年（一九〇八）八代一人吉間の鉄道開通。★明治四十三年（一九一〇）大逆事件が起る。★昭和四十年（一九六五）県水産種苗センターが大矢野町に完成。
- △6日★明治二十三年（一九四八）イギリス人、ハンナ・リデルが熊本市牧崎町に癩患者臨時救護所を設置。
- △10日★昭和二十二年（一九四七）県に初めて副知事を置く。
- △11日★昭和三十九年（一九六四）玉名平野の白石堰竣工。
- △13日★明治五年（一八七二）県庁が飽田郡二本木村に移転。翌十四日、県
- 郎国道全線開通。
- △24日★昭和三十九年（一九六四）国立阿蘇青年の家の開所式が行なわれた
- △26日★昭和二十二年（一九四七）阿蘇山の第一火口が爆発し、南郷谷に降灰が多く、放牧の牛馬、二〇〇余頭が斃死した。
- △27日★昭和二十四年（一九四九）天皇陛下が三十日まで、県下を巡幸された。
- △30日★明治六年（一八七三）白川県（現在の熊本県）権令として安岡良亮が任命された。★明治十二年（一八八七）第五高等学校が設立された（後の五高）。

- 名も熊本県から白川県と改称。
- △16日★昭和三年（一九二八）J O G K（NHK熊本中央放送局）の初放送が行なわれた。
- △17日★明治五年（一八七二）明治天皇が熊本巡視のため小島町に着船、二十日鹿児島に向われる。
- △20日★明治十五年（一八八二）徳富猪一郎（蘇峯）大江義塾を開く。
- △21日★大正三年（一九一四）熊本―肥後大津間の鉄道開通
- △23日★明治二年（一八六九）細州留那が知藩事になる。
- △24日★昭和三十三年（一九五八）阿蘇山爆発、死者二名、負傷者二八名を出した。
- △26日★明治九年（一八七六）断髪令公布。★昭和二十八年（一九五三）熊本全域に集中豪雨、死者二九一名を出すなど、被害が大きかつた。

■編集係より
明治百年にちなんで、広報くまもとでは従来まで県政歳時記「くまもと・昔と今」「くまもと点描」を別冊として発行してきましたが、本誌では今回から「熊本の明治百年」と題して県政百年の歩みを六回にわたって連載してみたいと思います。胎動する政治の变革や、歴史の歩みの中から生まれた数々の挿話にスポットをあてながら、熊本百年の軌跡を確かめて見るのも大切なことでしょう。
なお資料として「歴史ごよみ」もあわせて掲載しますのでご利用下さい。